

課題別委員会

自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン検討委員会（第25期・第4回）

議事要旨

1. 日時 令和3年9月28日（金）15:00～17:00

2. 会場 オンライン開催（ZOOM）

3. 出席者

【委員】家田、永井、柴山、浅間、唐沢、遠藤、渡辺、水野、佐倉、向殿、松岡、西條、宮崎、松宮、
須田、大倉、藤井、尾崎、野口、鈴木秀美、澁澤、有本、太田、鎌田、中野

4. 配布資料

資料1：議事要旨（第2回）・メール審議結果（第3回）

資料2：交通政策の視点から見た自動運転の将来（家田仁）

資料3：ドイツ社会における基本権の遍在（鈴木秀美）

資料4-1：議事次第_企画分科会（第3回）

資料4-2：【非公開】議事メモ_企画分科会（第3回）

資料5-1：議事録_小委員会（第2回）（P）

資料5-2：都市計画から見る自動運転（小野悠）

資料5-3：新しいモビリティシステムのシュミレーション（藤井秀樹）

資料6-1：学術フォーラム企画案（第315回幹事会）

資料6-2：「学術の動向」特集企画案（自動車の自動運転の今）

資料7：「カーボンニュートラルに関する連絡会議」について

5. 議題

〔1〕前回議事録確認

議事録の内容が確認され、学術フォーラムのメール審議結果も紹介された。第2回、第3回（メール審議）の議事録が承認された。

〔2〕自動車交通の本質とAI革命（家田委員）

資料に従い、発表が行われた。質疑では、交通安全、安全負担の在り方、障害者の移動、地域コミュニティ、自動運転技術が社会にもたらす便益、などについて意見が交わされた。自動運転技術は、レベル2の機能向上に寄与するものにした方が良い、社会デザイン全体の議論をすべきという意見が出た。

〔3〕ドイツ社会における基本権の偏在 ―連邦憲法裁判所に対する国民の信頼― 自動運転に関する最近の話題（鈴木（秀）委員）

資料に従い、発表が行われた。国によって文化、価値観などが相当違う中で、自動運転という世界共通の技術に関する議論の進め方について意見が交わされた。表現の自由などは各国で判断すべきと認識されているが、安全については共通の規範が求められ、ドイツはその点で主導権を握ろうと

している。日本も世界標準を作ることを目指しており、鈴木委員にはこの点において、力を発揮して頂きたいという希望が述べられた。

〔４〕企画分科会報告 永井委員長

学術フォーラムの準備状況について中野幹事から、学術の動向について、鎌田幹事から説明があった。永井委員長より、カーボンニュートラル連絡会議の説明があり、当委員会も参加を希望したとの報告があった。

〔５〕小委員会報告

中の幹事より、今後のスケジュールの報告があった。議事録と話題提供を共有するとの説明があった。

(以上)